

福井県文書館月替展示 2016.10.28-12.21

ふくい人はみた!

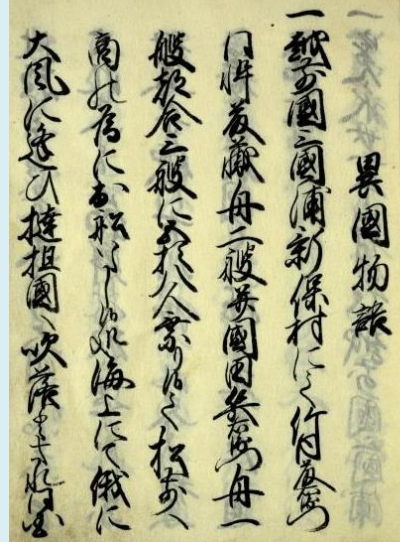
異国
災害
大事件

「ふくい人」の目を通してみた、江戸時代から維新时期までの全国的なできごとなどに関する資料を紹介します。

「ふくい人」のまなざし

異国での体験、未曾有の災害、世間を驚かせた大事件・・・福井に遺されたローカルな資料には、遠く離れた江戸・大坂の重大事件やその風聞を記録したものや、異国まで見通すグローバルな視野をもつものがあります。

初めて見る万里の長城のようすを驚きの目で見つめる、越前三国浦の船乗りたち。由比正雪の乱や明暦の大火を目の当たりにした、小浜藩主酒井忠勝。雪のなか行軍する水戸天狗党のようすをつぶさにみた、福井藩二ツ屋番所の役人たち・・・江戸時代から幕末維新时期にかけてのできごとに対する「ふくい人」が見聞した事件を紹介します。



「異国物語」(錦帯5葉流記)

情報や風聞を記録する



「出陣居以好規或集記」(部分)
大坂歴史博物館蔵

1807年(文化4)の、江戸の人びとを驚かせたできごとや事件をまとめた覚書には、「右到来にて写」とあり、北陸道を経由して現在のあわら市に伝わった情報を興味のままに記録したことがうかがえます。また、1837年(天保8)の大塩平八郎の乱の一部始終を記録したものが、「大坂大乱之一件左之通」として現在の越前市内に伝えられています。幕末維新时期の1867年(慶応3)に伊勢神宮の御札などが降り、人びとが狂喜乱舞する「ええじゃないか」というできごとがありました。小浜の有力町人井筒屋は、小浜町内でも「御被様」が降ったことを聞き、「珍事」として日記に記録しています。

「ふくい人」たちは、出来事についての情報や風聞を、覚書や日記、絵図などのさまざまな形で記録してきたのです。

裏面に主要展示資料を紹介しています。

資料（資料群名「資料名」）	資料または内容の年月日	資料群名・資料群番号・資料番号
<p>異国をみた男たち</p> <p>1644年、坂井郡三国浦新保の船頭竹内藤右衛門ら58名の鞆組(中国東北部)漂流の記録です。漂着後も困難に遭いながらも一行は万里の長城を越え、北京に連行されますが、偶然にも目の当たりにした明から清への王朝の興亡が記録されています。また鞆組・北京・日本の社会・風俗の違いを活写しています。（「鞆組漂流記(異国物語)」竹内誠氏所蔵）</p>	1644年（正保1）	A0201-00001
<p>幕府転覆未遂事件 一由比正雪の乱</p> <p>1651年、幕府転覆と牢人救済を掲げた軍学者由比正雪が牢人を集めて反乱を企てますが、未遂に終わります。当時大老として幕府の中樞にあった小浜藩主酒井忠勝は、この一件をいち早く小浜に伝え、反乱の中心となりうる牢人に対しいっそう警戒するよう、重臣たちに説いています。（「酒井忠勝書下」小浜市教育委員会蔵酒井家文庫）</p>	1651年（慶安4）	O0057-00609
<p>公方様は御無事、安心せよ 一明暦の大火</p> <p>1657年、江戸城や多数の大名屋敷、江戸市街地の大半を焼失した、いわゆる「明暦の大火」が発生しました。江戸にいた小浜藩主酒井忠勝は、藩本屋敷・下屋敷を焼失した被害の状況をいち早く小浜に伝えるとともに、江戸城は焼けただれたものの將軍家綱は無事であることなどを記しています。（「酒井忠勝書下」小浜市教育委員会蔵酒井家文庫）</p>	1657年（明暦3）	O0057-00670
<p>越前でも浅間山噴火の影響が…</p> <p>1783年7月、信濃の浅間山が噴火し、天明の大飢饉の一要因になります。資料はこの年の10月、大野郡・吉田郡の村々が作成した文書の写で、今立郡に残されたものです。「浅間山鳴動・砂降」から始まる「冷氣」「大あられ」など異常気象による田畑の不作・悪作を訴え、善処を願っています。（「乍恐書付を以奉願上候」山岸善四郎家文書）</p>	1783年（天明3）	F0009-00053
<p>世相を斬る江戸の「しゃれ」</p> <p>ロシア船の樺太・択捉来航から「人面之犬之子」まで、江戸の人びとを驚かせた1807年のできごとや事件をまとめたもので、北陸道沿いの村に伝えられた資料です。世相を鋭く皮肉る「丸尽くし」というしゃれの文芸も記録されており、江戸の庶民文化の一端がうかがえます。（「文化三寅年代記」土屋豊孝家文書 当館寄託）</p>	1807年（文化4）	C0044-00778
<p>世間に衝撃 一大塩の乱</p> <p>1837年に起きた大塩平八郎（元大坂町奉行所与力）の乱に関する資料です。資料には「怪しき出火」から始まった反乱の一部始終のほか、大塩平八郎の役人としての業績や人物評、乱の原因などについても記しています。幕府の役人であった人物が主導したこの反乱の、インパクトの大きさがうかがえます。（「大坂大乱之一件左之通」榎尾吉右衛門家文書）</p>	1837年（天保8）	E 0122-00099
<p>天狗党がやってきた！</p> <p>水戸藩重臣の武田耕雲斎を首領とする天狗党は、尊王攘夷を唱え、約800名の将兵を率いて京都をめざし中山道を進み、1864年12月に越前に入りました。南条郡二ツ屋には福井藩の番所があり、敦賀に向かう天狗党を注視していました。資料は、通過する天狗党の人数と軍装を番所が報告したものです。（松平文庫「筆叢拾遺」県立図書館保管）</p>	1864年（元治1）	A0143-00544
<p>小浜でも御札が降った？</p> <p>小浜の町人が残した日記体の資料です。1867年、京都周辺で伊勢神宮御札・諸神などのほか金銀などが降ったことを受けて、11月、小浜藩から、降った物があれば届け出ることなどの触が出されたことを記しています。実際同月14日、小浜でも「御祝儀」が降ったものの、混乱はなかったことを伝えています。（「当所珍事御触・大飢饉仕法立書留日記」小浜市立図書館（回覧家蔵）文書）</p>	1867年（慶応3）	O0111-00005
<p>西郷らの動向は？</p> <p>杉田定一が東京で新聞記者を勤めていた1877年1月の父仙十郎宛て書簡です。翌月の西南戦争の直前で、地租改正反対一揆や西郷らが挙兵し上京するなどの風聞を伝えています。この書簡を送ったあと、土佐に赴いた杉田は、板垣退助らと交わり、自由民権運動に身を投じることとなります。（「杉田定一書簡」池内啓収集文書 当館蔵）</p>	1877年(明治10)	A0174-00156

★ は現代語訳つき、 は翻刻文つきです。★各資料に関連する絵画資料や写真をパネル展示しています。